

## 令和元年度第2回市民活動センター評価委員会 摘録

日 時：令和元年6月10日（月）13：00～15：30

場 所：下京いきいき市民活動センター 集会室

出席者：

（委員，敬称略）吉田 忠彦（近畿大学教授）＜委員長＞  
中井 歩（京都産業大学教授）＜副委員長＞  
重野亜久里（特定非営利活動法人多文化共生センターきょうと代表）  
鈴木 ちよ（市民公募委員）  
土江田雅史（公認会計士）  
※ 伊豆田委員は欠席

（事務局）京都市文化市民局地域自治推進室

地域自治推進室長	猪田 和宏
市民活動支援課長	川瀬 清一郎
課長補佐	浅堀 知哉
担当係長	坂口 景章
担当	岩雲 千夏
担当	嶋田 優大

傍聴者：4名

取材者：なし

議 題：（1）平成30年度いきいき市民活動センター事業の報告について  
（2）平成30年度京都市市民活動総合センター事業の報告について

開催概要

### 1 開 会

### 2 議 事

#### （1）平成30年度京都市いきいき市民活動センター事業の報告について

5センターが平成30年度の実施事業について報告を行い，各報告に関し，評価委員が質疑等を行った。

#### <北いきいき市民活動センター>

（委員）

近隣の大学生サークル・団体と連携して新春フェスを開催したとあるが，その後，当該団体の貸館利用が増加するなどの効果はあったのか。

（北）

今回，新春フェスに参加いただいたのは，ちんどん演奏やアカペラなどの活動をしている団体で，普段いきセンを利用している団体の活動とは傾向が異なる。いきセンを利用している大学生団体は，チャンバラやバレーボールなどのスポーツ利用のため多目的ホールを使うことが多い。

(委員)

今後、地域住民への呼び掛けに力を入れたいという背景には、利用の減少などの課題があるのか。

(北)

貸館利用については、集会室や多目的室など規模の大きなものは利用頻度が増加している。しかし、同じ利用者が定期的に利用しているということもあるため、様々な団体に利用してもらうための取組を行っていきたいと考えている。

(委員)

北いきセンの近隣施設であるツラッティと連携した事業などは実施していないのか。

(北)

平成30年度は実施していないが、平成29年度まではツラッティが実施する企画展に併せて、活性化事業として関連事業を実施するなどしていた。今後、元楽只小学校跡地に集約された際には、本館2階がツラッティ、3階がいきセンとなるため、更に共催事業の実施などに取り組んでいきたい。

#### <岡崎いきいき市民活動センター>

(委員)

センターの課題として、利用団体の代表者の高齢化・固定化を挙げているが、これらの改善に向けた考えや対策などはあるのか。

(岡崎)

センターで開催する利用者会議において、利用団体に出席してもらうだけでなく、団体が抱える課題等を正直に相談、提案してもらうことで、次の担い手となる人も巻き込んで議論する場としている。地域の利用団体の代表者は80歳を超える方もおり、次世代につなげるための支援を行っていききたい。

(委員)

大学生と連携して実施している事業はあるのか。

(岡崎)

「岡崎ワールドミュージックフェスタ ワークショップ」を動物園、府立図書館等の地元公共施設と協働して開催するとともに、京都精華大学などの学生にパネルの作成や受付に協力してもらうことで、関わりを持つことができた。

(委員)

助成金申請やボランティアコーディネートに積極的に取り組まれている。

「復活：センター生まれ変わり大作戦」の「復活」とは、どういう意味か。

(岡崎)

平成23年頃にホスピタルアートとして制作した本館の壁画が、経年劣化していたことから、イメージ刷新も踏まえ「いきいきの木」としてワークショップによる壁画制作を行うこととした。

## <左京東部いきいき市民活動センター>

(委員)

左京東部いきセンと左京西部いきセンの指定管理者が同法人であるという強みをいかし、施設を横断するような活動も実施されている。一方で、運営施設が2つあることによる課題などはあるのか。

(左京東部)

以前にも、事業が類似していることや、人員不足などを指摘されたが、東部・西部それぞれの地域課題や施設規模に応じ、個性をいかした取組の実施に努めており、実務研修やワークショップを行うことで、効率的・効果的な事業を検証していきたい。

(委員)

子ども向けのワークショップは、普段バーチャルな遊びに偏りがちな子どもたちが、安心安全に身体をつかって活動することができ、非常に良い取組である。これからも継続してもらいたい。

(委員)

多文化共生促進事業に関しては、京都文化日本語学校で開催されたが、地域の外国人の方などはこの事業に参加されていたのか。是非、呼びかけて参加してもらいたいと思う。

(左京東部)

平成30年度実施の事業の際には京都造形芸術大学の語学部の参加だけであった、令和元年度に実施する事業に関しては呼びかけを行っている（インドの利用団体等）。

## <左京西部いきいき市民活動センター>

(委員)

左京西部いきセンは、施設見学に伺った際も利用者の多さに驚いた。これまでは、劇団という指定管理者の特徴をいかした事業を子どもや地域に向けて実施されていた印象があるが、平成30年度には実施されているのか。

(左京西部)

左京東部と連携した子ども向けワークショップの事業を、プロの演劇指導者とともに小学生を対象に実施した。一方で、いきセンの指定管理者としては、演劇の普及ではなく社会課題の解決を目的として事業を実施していく必要があると考えている。

(委員)

いきいきワークショップフェスティバル 2018 は、左京区役所が実施する「左京大博覧会」と連携して開催したとのことだが、大博覧会はどこで開催されていたのか。お互いの開催場所は行き来しやすかったのか。

(左京西部)

それぞれのイベントの開催場所は、左京大博覧会が左京区役所、いきいきワークショップフェスティバル 2018 が左京西部いきセン、そのほかに叡山電鉄元田中駅の近くにある建物でも関連イベントが開催されていた。左京区役所だけは、他の2箇所から少し離れたところにある。また、3箇所において同時にイベントを実施していることは、チラシやポスターなどでお知らせし、誘導している。

## <醍醐いきいき市民活動センター>

(委員)

醍醐いきセンは、駅からアクセスの良い場所でもなく、周囲に多く利用者が住んでおられるわけでもないが、地域活性化のため様々な工夫をされ、オリジナリティのある事業を実施されている。情報発信についても積極的に取り組まれており、今後も継続してもらいたい。

(委員)

「北醍醐大作戦」は、子どもを持つ父親の相談を受け企画された活性化事業であるということで、是非継続して実施してもらいたい、このほかに父親の参加が増えるような工夫をされている企画などはあるのか。

(醍醐)

父親を対象としたサークル等はないが、今年度に流しそうめんを企画しており、竹を使って工作するところから、「モノづくり」を父子で体験してもらえる事業となっている。今後も父子での利用を促進するイベントを続けていきたい。

(委員)

「醍醐でムービー」は、東山いきセンとも連携して実施された事業だと聞いているが、上映会を全ての撮影場所で実施したというのは面白い。もう少し詳細に教えてもらいたい。

(醍醐)

東山いきセンで開催されたワークショップに参加したことがきっかけで、市民グループ「伏見情報局」が設立され、「醍醐でムービー」の撮影・上映会を実施することができた。また、その後も東山いきセンには機材をお借りしたり、編集に協力いただいたりしており、今後お互いに連携を続けていきたいと考えている。

## (2) 平成30年度京都市市民活動総合センター事業の報告について

市民活動総合センターが平成30年度の実施事業について報告を行い、報告に関し、評価委員が質疑等を行った。

## <事業報告>

(委員)

情報コーナーを整備して、サードプレイス化するために、レイアウトを変更したと報告があったが、イベント等で活用しているか。

(総合センター)

今年の春にレイアウト変更を行ったところであり、団体のミーティングや学生に利用されているが、今後は、ルールを整えて会議や活動団体の展示、ワークショップの場に活用できればと考えている。

(委員)

ぜひ、センターの利用や稼働率が上がるようにしていただきたい。

(委員)

報告資料の育成の中で、講座開催の実績について、定員より実数が少ないものがある。必要な

ものや内容、質の高いものは続けるべきと考えるが、講座内容に対するニーズが変わってきているように感じられる。傾向などがあれば教えて欲しい。

(総合センター)

初歩講座と認定・認証講座に分かれているが、初歩講座はインターネットや本からの知識だけでなく、直に聞きに来られることが多い。認定・認証講座については、インターネット等から多くの情報が受け取れることから、受講者数が少なくなっていると考えている。受講者数に関わらず、必要なものは継続すべきと考えているが、今後は、講座の内容について、関心の高い組織基盤強化や組織編成にシフトするべきとも考えている。

(委員)

形式や枠もあると思うが、変化やニーズの分析を行いながら、講座内容を見直すことも良いのではないかと思う。

(総合センター)

評価については受講者数の増減だけでなく、講座内容・質や考え方も含めて考えてほしい。

(委員)

神奈川県には公設公営の施設として「かながわ県民活動サポートセンター」があり、予算4億円、職員約25人の規模で運営している。そこに比べると市民活動総合センター(以下、しみセン)は少ない予算と人員で頑張っている。

先ほど他の委員も言われたとおり、社会のニーズやトレンドが変わってきている中で、市、評価委員会、指定管理者との間でも全体のスキームや評価基準の見直し時期にきているようにも感じている。昨年度の評価でもワークライフバランスの観点から厳しいことも言ったが、NPO法人であるきょうとNPOセンターの中間支援組織としての活動としみセンとしての活動との区分けが難しく、祇園祭ごみゼロ大作戦でのボランティアコーディネート指定管理業務として評価しきれていなかった部分があったが、今後は評価していくこととしたい。いくつかのいきいき市民活動センターからも、センターの外へ出て活動しているという報告もあり、今後はセンターの外へ出て活動する時代になってきていると感じている。

(総合センター)

祇園祭ごみゼロ大作戦については、大きな労力を必要とするボランティアコーディネートであるが、しみセンの指定管理業務として、シフトも協力しながら、センター業務もきちんと行い、職員の休みにもきちんと配慮している。今年度もすでにボランティアコーディネートを始めており、ワークライフバランスにはきちんと対応していく。

以上